

■第3回佐賀市自治基本条例検討会議 ワークショップ「現状の協働のまちづくりに対する問題点。なぜできていないのか。」 各班からの意見一覧

1班	2班	3班	4班	5班	
<p>○情報共有不足(市民－行政)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が市民活動の実態を知らない(知ろうとしない) ・市民がNPOに対して関心を持つきっかけが少ない ・行政の市民の情報共有 ・参加のきっかけがないことが問題ではないだろうか？(この会議のような無作為抽出の方法が、各種市民委員の選出がもっと広く採用されるべきではないか) ・行政のコミュニケーションを実施する機会が少ない 		<p>○情報・広告不足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所や地域できめた事が、住民におりていない ・行政の広報不足 ・マスコミの力不足 ・情報の不足 ・市民の情報力(＝コミュニティ)不足 ・(市民と行政)互いのニーズが分からないから 	<p>○協働に向けた働きかけが弱い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政等の広報・周知・啓蒙不足 ・協働のまちづくりのPR不足だと思う(認識) ・各区自治体等を通した情報の伝達活用不足 	<p>○情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が今どのような事を行っているか知らないの ・で、行動もしない ・知らない人が多いと思う ・NPO団体が何があるのか、どういう活動をしているかなどを見る機会がなく接点もない 	情報不足
<p>○行政・市民の無関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が行政に関心を持ってない。(機会がない) ・まちづくり以外でも行政に対する無関心 ・多くの人々は、市報などをきちんと読まないのではないか？PRの手法を考える必要がある。 	<p>○行政</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政との対話がない(市民) ・行政にどこまでしてもらえるかよくわからない ・行われているのかもしれないがPR不足？ ・窓口がわからない ・スピード感の違い 				行政
<p>○市民間の無関心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人が何を考えているかを話し合える機会が少ない(近所づき合いの減少) ・地域社会への関心が減ってきている。(個人主義自分勝手) ・人と人同士の無関心 ・市民自ら将来に向け関心がない ・まだ生活が豊かなため、危機感が薄いのではないか？ 		<p>○つながりがうすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が利己主義になっている(マンション等)(地域行事への参加) ・地域コミュニティが確かなものでなくなっている ・市民団体が点在しているから ・向こう三軒両隣のものの再構築が必要 ・市民参加型の行事も一定の人たちにも見える <p>○市民側の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多趣味など時間がない市民も多い ・行政の方と接点が少なく、初めにどう接したらいいかわからない ・市民の街づくりへの意識の低下 ・市民側のお世話役になり手の人が少ない。 	<p>○公・みんな・地域 に対 意識 低さ 個人的傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各個人の意識の低さ無関心？ ・あまり見覚めていない、認識がない、低調だと思う ・「みんなでやる」という意識が迅速になくなっている。(例)子どもは地域で育てる PTA、まつり、ゴミ拾い ・市民の参加意欲、意思不足 ・個人的に知識が足りず、自分の事ばかりに偏っている。 ・地域の課題への関心の低さ ・公に対して希薄で認識がない、重要でない。 <p>○なぜ、協働できなくなってきたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで支え合う力が不足している ・人と人のお互いのコミュニケーション不足 ・災害や犯罪が少なくなり、守るべきものが減った。 <p>○どうやる！！人づくり、新しいテーマを見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのリーダー養成不足だと思う ・何でもお上がやってくれるという風潮が強すぎる ・自助⇒協働までで考える問題がまだたくさんある。 	<p>○個人主義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人の意識が薄い ・個人主義(個人情報) ・行政がやってくれるので、自分は関係ないという意識が有る。もしくは多忙で参加できない ・自分から進んで行動に移せていない。 ・必要性を感じていない人が多い ・行事に参加者が少ない <p>○状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日が多忙 ・地域力の低下 	市民
<p>○地域性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションをとれる場をつくり、市民みんなが積極的に参加する ・地域コミュニティの希薄化 	<p>○地域</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との必要性がえられてない。 ・地区でも気になる面が多くありますが、私たち個人では口出し、手出しはなかなかできません。 ・家の前に、こいのぼりが3匹元気に泳いでいるのを見ていると、元気が出ます。うれし～い！！ ・地域の住民としての自覚が欠如している折り合いをつけると思わない(思い込み) ・協力しようと思っていない(自我が強い) ・特定の人参加せず、寄せにも参加しない。 ・人と人とのつながりが無くなっている 				地域コミュニティ
<p>○市民活動団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民・行政が“NPO＝善”とは必ずしも思っていない。(チェック機能が働いていない) ・行政とNPOが“対等”であるのか？→現状は“No”(歴史やノウハウ等の蓄積が行政はある。) 	<p>○市民活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動で手一杯 ・してもらって当たり前と上から目線で言うことでトラブルになる団体もある 				市民活動
				<p>○教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年戦後68年、この期間経済成長におもきを於いた施策で唯物本位でメリット・デメリット、損得で判断 ・IT社会ですが、コンピューターもハードよりソフトに価値がある。薄い紙も表と裏で1枚 ・「協働」という言葉の意味 ・善か悪かで事に処する心の育成が大切である。心の教育を佐賀市自治基本条例で制定。 	教育
		<p>○堅いイメージがある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔が少ない ・難しいと言う感じでとらえてしまいがちだから ・報告書の作成やお金の管理など事務的なものが面倒 ・行政が一方的な様な感覚があるから ・ユーモアがない ・型にはめすぎる所 ・理解している人の枠内で説明されることが多く、0の人にも理解しやすく 			協働に対するイメージ

協働

■市民

○無関心・個人主義

- ・地域社会への関心が減ってきており、個人の意識が薄い(個人主義 自分勝手)公に対して希薄で認識がない、重要でない、と思っている。
 - ・個人的に知識が足りない、自分の事ばかりに偏っている。
 - ・市民自ら将来に向け関心がなく、自ら進んで行動に移せていない。必要性を感じていない人が多い。
 - ・生活が豊かになったため、危機感が薄くなった。
 - ・何でも行政がやってくれるという風潮が強すぎる。
- 自助⇒協働までで考える問題がまだたくさんある。

○コミュニケーション・つながりの不足

- ・人と人のお互いのコミュニケーション・つながりが不足
 - ・近所づき合いが減り、他人が何を考えているかを話し合える機会が少ない
 - ・マンション等において住民が利己主義になっている(地域行事への参加)
 - ・市民団体が点在しているから
 - ・向こう三軒両隣のものの再構築が必要
 - ・「みんなでやる、支え合う」という意識が迅速に無くなっている。
- (例)子どもは地域で育てる PTA、まつり、ゴミ拾い等

○現状・課題

- ・災害や犯罪が少なくなって、全体で守るべきものが減ってきた。
- ・まちづくりのリーダー養成不足だと思う。

■教育

- ・今年(戦後 68 年)、この期間経済成長におもきを於いた施策で唯物本位でメリット・デメリット、損得で判断
- ・善か悪かで事に処する心の育成が大切である。心の教育を佐賀市自治基本条例で制定することも考えられる。

■情報不足

○全体

- ・知らない人が多いと思う = 情報の不足
- ・行政と市民の情報の共有
- ・市民と行政の互いのニーズが分からない

○行政

- ・市役所や地域できめたものが、地域住民におりてきていない
- ・行政等の広報・周知・啓蒙不足

○市民

- ・市民の情報力(=コミュニティ)不足
- ・各区自治体等を通じた情報の伝達活用不足
- ・市が今どのような事を行っているか知らない、行動もしない
- ・協働のまちづくりのPR不足だと思う(認識)

○PR 不足

- ・多くの人々は、市報などをきちんと読まないのではないか? PRの手法を考える必要がある。
- ・協働の活動が行われているがPR不足。
- ・理解している人の枠内で説明されることが多いため、理解していない人にも理解しやすくする必要がある。

○その他

- ・マスコミの力不足

■参加

- ・参加のきっかけがないことが問題ではないだろうか? (この会議のように無作為抽出で各種市民委員の選出する方法がもっと広く採用されるべきではないか)
- ・市民の参加意欲、意思不足
- ・多忙で行事に参加できない、また参加者が少ない
- ・市民参加型の行事も一定の人たちにも見えるようにする。

■行政

- ・市民が行政に関心を持ってない。(機会を与えていない)
- ・まちづくり以外でも行政に対する無関心
- ・市民にとって行政との対話がない
- ・行政にどこまでしてもらえるかよくわからない
- ・窓口がわからない
- ・スピード感の違い
- ・行政が一方的な様な感覚があるから
- ・行政のコミュニケーションを実施する機会が少ない

■協働に対するイメージ

- ・「協働」という言葉の意味
- ・笑顔が少ない
- ・難しいと言う感じでとらえてしまいがちだから
- ・報告書の作成やお金の管理など事務的なものが面倒
- ・ユーモアがない
- ・型にはめすぎる所

■市民活動

- ・市民・行政が“NPO=善”とは必ずしも思っていない。(チェック機能が働いていない)
- ・行政とNPOが“対等”であるのか? →現状は“No”(歴史やノウハウ等の蓄積が行政はある。)
- ・自分の活動で手一杯
- ・してもらって当たり前と上から目線で言うて行くことでトラブルになる団体もある
- ・NPO 団体にどのような団体があり、活動をしているか等を知る機会や接点がない
- ・市民が市民活動の実態を知らない、知ろうとしない。
- ・市民が NPO に対して関心を持つきっかけがまだ少ない

■地域コミュニティ

- ・コミュニケーションをとれる場をつくり、市民みんなが積極的に参加する
- ・地域コミュニティの希薄化及び地域力の低下
- ・地区で気になる事が多々あるが、個人では口出し、手出しはなかなかできない。
- ・地域の住民としての自覚欠如している折り合いをつけると思わない(思い込み)
- ・協力しようと思っていない(自我が強い)
- ・特定の人は何にしても参加しない。寄合に参加しない。
- ・地域コミュニティが確かなものでなくなっている